

《出発式—8月3日 鈴鹿市役所一階市民ロビー》

朝9時より、鈴鹿市長、鈴鹿市教育長にご出席いただき、出発式を執り行いました。



これまで、練習を積み重ねてきた出発式での所信表明は、皆、緊張しながらも、何度も練習しただけあり、立派に自己紹介と抱負を発表できました。



派遣生達の希望と熱意のある所信表明に、鈴鹿市長(真ん中)、教育長(左)、鈴鹿国際交流協会理事長(右)は、温かい拍手を送って下さいました。

リーダーの涼さんが、派遣生を代表して、全員の意気込みを伝えます。涼さん、緊張してたネ!!(笑)



末松則子鈴鹿市長は、読みかけていた原稿を閉じ、派遣生ひとひといに、ご自分の言葉で、声をかけて下さいました。そして、涼さんが皆を代表して、鈴鹿市長よりベルフォンテン市長への書簡を預かりました。

ちょうどこの期間、市民ロビーで開催していたベルフォンテン市との友好協定調印 20周年を祝う展示会を開催中だったので、その看板の前で、全員写真を撮りました。全員ピースサインで、笑顔で出発です!



## 《ニューヨーク》

ニューヨークは雨でした。

夕食までに少し街を散策しようと、5番街を歩きました。傘を持たずに出てしまった人が何人かいた為、店先に傘を出していたお店に全員で入りました。



2軒目のお店でも、たくさん買い物をしました。

小さなお店なので、私たち全員が入ると、もうお店はいっぱい。子供達の買い物の精算に忙しい店員さんの代わりに、私が外から傘の値段を聞くお客さんに、値段を伝えていました。みんな、ポストと切手を買ってたね！日本のご両親や友達に、カードを送るんだね！消費税の計算が、とってもアバウトだったのが印象的でした。



花屋の店先



セントラルパーク入口のモニュメントの前で記念写真



歩道に積み上げてあったゴミ。分別はしていないようです。



ブロードウェイのサインに、みんな興奮気味！！

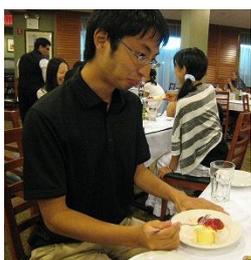
タイムスクエアのネオンサインに圧倒されつつ、ここでももちろん記念写真！

## \*夕食

ホテルは、ミッドタウンのホリデイ イン。そこの一階のレストランで夕食をとりました。



メニューは、シーザーサラダとチキン&マッシュポテト、デザートはチーズケーキ。サラダはGood! ポリュームいっぱい!



チーズケーキは思った以上に甘かった!! みんなの表情が物語っています。↑

## 《ニューヨーク 2日目》

### \*朝食

次の日の朝は、時間が30分しかなく、みんな大急ぎで食べましたネ!



朝食もボリューム満点でした。でも、みんな時間がなかったにもかかわらずペロリと完食!! すごい!!



### \*グランドゼロ

車窓からグランドゼロを見ました。



崩壊したツインタワーの跡地はそのままに、その傍に、改めて高層ビルを建設中でした。9.11テロからもう10年。平和な世の中が実現するのは、いつになるでしょう。ベルフォンテンの旅の中では、毎年、「平和」に関しても考える機会を設けています。写真のピースサインも、思いを込めてしているのです。



## \*自由の女神

バッテリーパークからフェリーに乗ってエリスアイランドへ。途中、フェリーから自由の女神を見ます。



**みんな目がイキイキしています。風が気持ちよかったネ！**

**ひとい大人な優希ちゃん(笑)**

## \*エリス島移民博物館



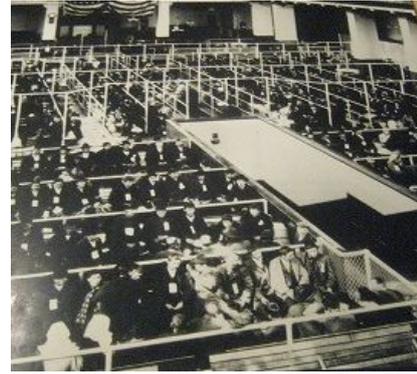
**アメリカは移民の国です。ここ、エリス島は、移民達が最初に到着した島で、ここで、色々な検査を受け、入国の手続きをしました。館内の壁には、到着したばかりの移民達が、本館に入るため、列を作っている写真がありました。展示してある荷物は、当時の移民達が持ってきた荷物です。**

**←ガイドさんの話を、熱心に聞き、メモを取る生徒達。当時の移民達に、思いを馳せます。**



←現在

ここが、当時は  
このように→  
仕切られ、  
審査を待つ人  
でいっぱいでした。



20世紀の初めになると、毎日5,000人位の移民が Ellis 島に着くようになり、1907年4月17日には、なんと一日に11,747人もの方が到着したと記録されています。一級・二級船客は、乗ってきた汽船上で即座に移民手続きを受けましたが、下級船客は、過酷な環境の中、やっと Ellis 島にたどり着き、喜びの涙を流したのもつかの間、登録室で各自審査を受け、病気などで許可が下りない時は、家族と離されたり、また辛い環境に戻らねばならず、悲しみの涙を流す…ということから、Ellis 島は「涙の島」と呼ばれていたそうです。



帰りのフェリーで。

女子は元気いっぱい!

男子は疲れちゃったかな?



かつて、ここ Ellis 島に、宗教迫害・政治闘争・失業・家族の円・冒険心など、様々な理由でたくさんの移民が押し寄せました。

鈴鹿市にも、たくさんの外国人定住者がいます。例年のことですが、生徒達に、多文化共生についてのお話を、帰りのフェリーでしました。少なくとも、このベルフォンテンメンバーは、在住外国人の立場や気持ち、困難などを理解し、日本社会に溶け込めるよう、橋渡しのお手伝いができる人たちになっていって欲しいと思います。



## \* 国連本部ビル

ベルフォンテンに移動するため、空港に向かわねばならず、かけ足で見学しました。国連総会の行われる大会議場や、国連加盟国各国から寄贈された絵やオブジェなど、本当はもっとゆっくり見学したかったのですが、そういうわけにもいかず、残念でした。特に、日本の国連加盟を記念して寄贈された「平和の鐘」を見たかったのですが、修復工事中で囲いがされていた為、見る事ができませんでした。



テレビなどで幾度となく見ていた風景だけに、目の当たりにして感激！！



国連ビルに入るためには、入国審査のような厳しいセキュリティチェックがあります。液体の持ち込みも禁止です。



一階には、歴代の国連事務総長の顔写真のパネルが並んでいました。↑



シャガールのステンドグラスの前にてこの絵は、平和と愛を象徴するシンボルが描かれているそうです。



国連のエンブレムです。平和のシンボルであるオリーブのリースが、まわりを囲んでいます。

現在国連加盟国は192か国。国連の敷地内はどこにも属さず、治外法権が確立しているので、国連は自己の警備隊、消防隊、郵便部門を持っています。地下一階にある郵便局では、ここでしか手に入らない切手を販売しているので、ここからハガキを出すと、記念になるそうです。



\*Lunch



外のテラスがおしゃれなカフェテリアでした。



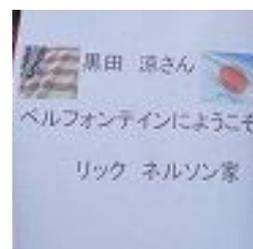
やっぱりハンバーガー...そして、やっぱりすごいボリューム!

感じの良いカフェテリアでLunchを食べました。店内は、空調が効きすぎて、寒い！日本の節電による蒸し暑さに、体が慣れて来ていた頃なので、本当に寒かったです。Lunchも大急ぎで食べて、さあ！いよいよベルフォンテンへ。空港へ向かいます。

《ベルフォンテン》



汐未ちゃんのホストは、毎年受け入れて下さっているMaierファミリー。オープンカーに乗せられて帰っていく汐未ちゃんを、みんな「かっこい〜!!」と、圧倒されて見送りました。



涼さんのファミリーは、なんとウエルカムメッセージを掲げて、待っててくれました!



いよいよ、ホームステイの始まりです。みんな頑張ってネ！



## 《8月5日(金)》

### \*アダム ブラナン ベルフォンテン市長 表敬訪問



まずブラナン市長に、東日本大震災の際、ベルフォンテン市の多くのみなさんから、私たちを心配する多くの温かいメッセージをいただいたことに感謝を述べました。そして、私たちの訪問と時を同じくして、鈴鹿市役所で開催されていた友好調定20年のあゆみ展の様子を、拡大写真を見ていただきながら説明しました。

それから、生徒がひとりずつ自己紹介していきました。名前と学校名・学年、ベルフォンテンでのホームステイの意気込み・豊富など、英語で伝えます。これまで積み重ねてきた練習の成果を発揮する時。研修をしている頃は、大丈夫だろうかと心配するほどでしたが、この日はみんなびっくりするほど、堂々としっかりとした口調で、それはクリアに自己紹介ができていました。本当に感動しました！





次に、リーダーの涼さんが、鈴鹿市長から預かったお手紙をブラナン市長へ手渡しました。ブラナン市長は、みんなの前で末松則子市長のお手紙を読み上げ、改めて涼さんに「Thank you」と言いました。そしてその後、固い握手を交わしました。



智加ちゃんは、中学校でも英語部に所属しているだけあって、発音がとってもきれいです。緊張しながらも、しっかりと役割を果たしてくれました。



次に、智加ちゃんが、お土産を渡しました。伊勢型紙の飾り絵です。伊勢型紙とはどんなものか、詳しく説明をして、理解していただきました。

◆風呂敷とうちわの紹介

ブラナン市長と商工会議所 会頭のポール ベネデッティ氏に、日本文化の紹介をしました。



風呂敷の包み方を紹介。  
まずはオーブックスな箱の包み方から。



すいかを包みます。



ほら！簡単でしょ！？と見せると、感嘆していましたよ。



手作りのうちわもプレゼント



市長からは、ベルフォンテン市の旗をいただきました。そして、生徒達には、ベルフォンテンのTシャツやドリンクホルダーをいただきました。



風呂敷もプレゼント





次は、市議会場の議長席で、恒例の記念写真



市長室にて。後ろの壁は日本からの贈り物で飾ってありました。



フランシス市長は、お子さんが生まれたばかりで、市長室のパソコンのデスクトップには、奥様と2カ月の男の子の写真がアップされていました。

**\* 消防署見学**

市庁舎と隣接する消防署を見学しました。今年は、とっても面白い署長さんがみえて、大笑いの連続でした。



しーちゃんが「火消」のTシャツを着てきたのを見て、署長さんは大喜び！写真ひとつ撮るのも、この表現力！！

「誰か、消防車を運転するかい？」という署長さんの問いかけに、ひとり手を挙げた涼さん。運転席に乗せてもらいました。



署長さんが、クラクションを思い切りブーッと鳴らすと、あまりの大きさにみんなびっくり！本当にエンジンもかけたので、涼さんはびびり気味。涼さんが、消防車の運転席を見せてもらっている間、女子は消防車や救急車の中を見せてもらいました。署長さんの言う、冗談が、英語なのでよくわからないものの、その身振りや話し方がおかしくて、生徒達は何度も笑っていました。



「誰か具合の悪い人はいない？」という署長さんに、「ハイ！」と手を挙げた私。  
実は、この日、風呂敷の包み方を紹介をする際に、ワインボトルが2本必要だったので、私はホストのVickiさんと旧交を温めながら、前日の夜、共にワインを2本空けていました。それで、朝からずっとひどい頭痛だったのです。「それはちょうどいい！」とばかりに、すぐ、担架に乗せられ、手首や足首に色々な装置を付けられ、脈拍や心電図などをとられたのです。  
救急車に乗ると、まず、どのような処置をするのか・・・見せてもらったのですが、実験台になった私は、とーっても恥ずかしく・・・ある意味、今年の強烈な思い出となりました。二日酔いではあるものの、モニター表示された私の数値は、全て正常で、事無きを得ました。



恒例の降下体験。



航くんが、消防服を着せてもらいました。消防服は大変重く、着るのも一苦勞です。その上、重たい酸素ボンベとマスクをつけると動くのも楽ではありません。  
消防士さんの尊さが改めてわかりました。大変なお仕事ですね！



消防士にかっこよく変身した航君を中心に、みんなで記念写真！！

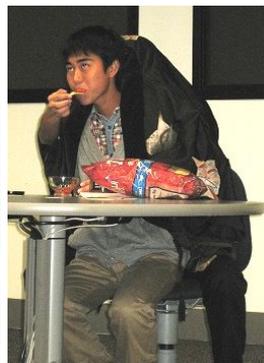
## \*ローガン郡教育長に面会

ベルフオンテン高校で、ローガン郡の教育長の皆さんに会いました。



まず、教育長の皆さんが、自己紹介をして、それぞれの学校の説明をしてくれました。次に、生徒達が順番に自己紹介をしました。市長に会うより緊張したそうです。そして、ここでも日本文化の紹介をしました。

## ◆二人羽織



二人羽織がどういうものか、まず、桃ちゃんと優希ちゃんが英語で説明し、その後、航くんと涼さんがやって見せました。ふたりのおかしな動きに、思わず教育長さん達から笑いが漏れ、緊張でピンと張りつめていた空気もここで随分和らぎました。

その後は、また、うちわと風呂敷の紹介をして、教育長の皆さんにもプレゼントを渡しました。



↑ 鈴鹿墨の説明をする涼さんと優希ちゃん。



↑ 赤・青・緑の鈴鹿墨を実際に見せるほなちゃんとしーちゃん。

↑ うちわの説明をする彩乃ちゃん



風呂敷ひとつで、実に色々なものが包めて、しかも、見た目が美しいことに、教育長のみなさんは本当に感嘆されていました。風呂敷の柄は、様々で、古典柄からモダンなものまでよいとみどり。日本の誇れる文化のひとつです。教育長の皆さんには、それぞれ違う柄をプレゼントして、とても喜んでいただきました。



**\*ホンダ オブ アメリカ メアリスビル工場見学**



まずはランチをご馳走になりました。サンドイッチはハム・ローストビーフ、ターキーなどがあり、とてもおいしかったですよ！

ありがとうございました。



ランチをいただいた後は、HONDAの現地社員(日本人)の方に、まずはスクリーンを見ながら、色々な説明を受けました。

2010年、米国で最も売れた車は、フォード Fシリーズのトラックだそうです。

日本とアメリカでは、売れている車は随分違うそうです。

ホンダ車で、アメリカで良く売れるのは、アコード、シビック、CR-V。日本ではフィット、フリードだそうです。

アメリカでは、免許保有者数よりも、車の数が多いということでした。

ホンダは、1982年、日本の自動車メーカーとして初めてアメリカで乗用車の現地生産を開始。現在、ホンダ車の米国シェア率は昨年で10.6%ということです。



**生徒達も、真剣なまなざしで説明を聞いています。綾香ちゃんが、クイズに正解し、またツアーでも積極的に質問をしていたのが、印象的でした。綾香ちゃんは、車が好きなのかな？**

説明の後は、防護メガネとイヤフォンをして、いざ工場見学ツアーへ！中学生、高校生の2グループに分かれて、出発しました。

工場内は主に、以下の4つの部門を順に見学しました。

- ① Stamping： プレス加工によってボディパネルを作っている所
- ② Weld： 車体の溶接と組み立てをしている所
- ③ Paint： ボディの塗装と防錆、防水(シーリング)、防音処理をしている所
- ④ Assembly： 完成車の組み立てをしている所



**ツアー中は、社員食堂も見学したり、事務所を覗き込んで、従業員さん達に手を振ったり、とても充実した楽しいツアーでした。HONDAメアリスビル工場のみなさんに感謝です。**

**帰りには、HONDAのロゴ入りのバックをお土産にいただきました。ありがとうございました。**

## \*リトルラーナーズ デイケア センター

生徒達の一番楽しみにしていた場所です。市長への挨拶の中にも、「私は子供が大好きなので、子供達と交流がしたい!」と言っていた生徒も多く、ようやく緊張感から解放され、生徒達も楽しみな様子でした。

センターに着くとすぐ、小さな可愛い子供達と対面。挨拶をしました。

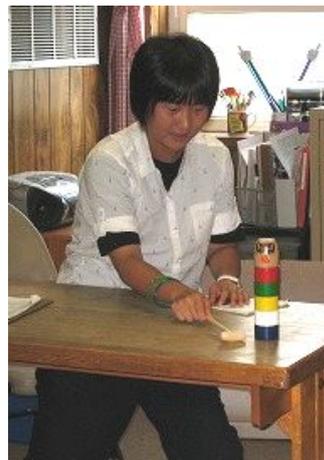


### ◆だるまの紹介



優希ちゃんが「だるま」を見せながら、しーちゃんが、だるまさんがどんなものか説明しています。

### ◆だるま落とし



日本の昔なつかしい子供の遊びを紹介。しーちゃんが、実際に、だるま落としをやって見せます。これは、子供達へのプレゼントです。

### ◆だるまさんがころんだ



まず、「だるまさんがころんだ」のやり方を、実際にやって見せて説明してから、ちびっこ達と一緒に遊びました。ちびっこ達は、随分盛り上がり、何度も繰り返して遊びました。本当は外がよかったネ!  
「だるまさんがころんだ!」というセリフが、ちびっこ達には少し難しかったかな?これを覚えて、普段も遊んでくれるとうれしいなあ~。



◆あやとり



女子全員ではしごを一段～十段まで作って見せました。そして、ちびっこ達と一緒に、「ワン・トゥー・スリー」とカウントしていきました。



あれっ！？優希ちゃん、10段のはずが、9段しかない！？(笑)



男子は、マジックを2種類見せます。ちびっこ達も大喜び！



←ほなちゃんは、ひとひあやとりをやって見せました。  
田んぼ→川→鼓など、形を変えていきます。

→綾香ちゃんとしーちゃんは、ふたりで、あやとりを取り合います。



子ども達に、けん玉もプレゼントしました。けん玉は4年前にも、プレゼントしたので、子供達はやり方もよくわかっていました。でも、玉をふりまわして乗せようとするので、「膝を使って玉を上にもっていくといいよ。」と言うとすぐ上手に乗せられるようになり、子供の習得の速さに驚きました。またふたつお土産に置いていくので、使ってね！

### ◆新聞兜づくり

昨年は時間がなくて、新聞兜を作ってあげることができなかったので、今年は、このセンターの滞在時間を少し長くしてもらって、ちびっこ達と、新聞兜を作ったり、あやとりやだるま落とし・けん玉をしたりして、十分にふれあう時間を持てました。

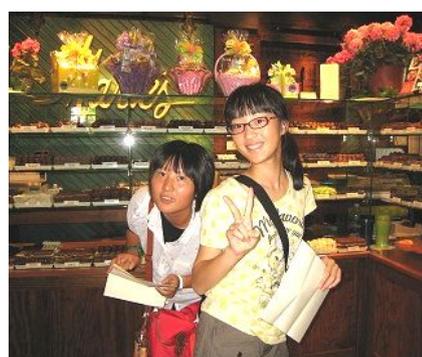




最後に可愛いちびっこ達と一緒に記念写真。かぶとの作り方、忘れないでネ！

◆マリーズ キャンディ

ツアーの最後は、チョコレート屋さんでお買い物です。



## \*ホームステイ

ベルフォンテン市内視察ツアーが終わったら、生徒達はいよいよ本格的にホームステイに入ります。

生徒達のホームステイの様子は、それぞれのレポートを読んでいただくとして、私は、今回かねてより興味を抱いていた“アーミッシュ”について、ホストの Vicki さんに尋ね、アーミッシュのお店や家を見学しに連れて行ってもらいました。

アーミッシュとは、主にペンシルベニア州やアメリカ中西部などに居住しているドイツ系移民で、移民当時のまま、自給自足の生活をし、電気や電話も使わず、車にも乗りません。移動は馬車でします。彼らはあらゆる社会保障には加入せず、年金制度も利用していません。子供たちは、一般の学校には通わずアーミッシュのコミュニンで資金を出し合い建設された学校(8年制)に通っています。女性はお化粧もしません。主に、農耕や牧畜で生計をたてています。ベルフォンテンでは、家具・工芸品・パッチワークなども売っていました。

戒律の厳しさは、アーミッシュによって、厳しいところから、少しゆるい所もあるようです。

以前から、アーミッシュのことは聞いたことがあり、興味深く思っていたのですが、たまたまオハイオ州にはアーミッシュの村があることを知り、Vicki さんに連れて行ってもらいました。



どうもろこし細しかないおなじみの一本道



アーミッシュが乗る馬車を発見。馬車のタイヤにはゴムが付いていません。



アーミッシュの農場に建つ小屋は、みなレンガ色でした。それに馬車や風車があれば、アーミッシュの家の象徴なので、一見すればすぐにわかります。



アーミッシュの店の軒先。売り物の家具が外にも置いてあります。



お店の中で売っているもの。食料品は、ジャムやゼリービーンズが美味しかったですよ!



**キッチン用品もたくさん売って  
いました。観光客には、お土産  
を買うのに良い場所ですネ！**



**アーミッシュの  
子供たち。  
アーミッシュ  
は、皆無地の服を  
着ています。  
男子は大人も  
子供もサスペン  
ダーをしています。  
女性は必ず帽子をか  
ぶっています。**

アーミッシュの生活は、ある意味、エコにも繋がっているように感じます。

しかし、現地の隣人達は、馬の糞で道路を汚したまま行ってしまう彼らに不満を抱いたりしている側面もあるようです。

私が訪れたアーミッシュのお店の方は、写真をお願いしたら、快く一緒に写真を撮ってくれました。でも、その後、店主の方に「Don't oppose but not pose」(断ってはいいが、ポーズをとってはいい)と叱られていました。彼女に申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。I'm so sorry.

そんな貴重な写真ですから、是非掲載したいところですが、このレポートはベルフォンテンのみなさんも見ますので、彼女の誠意を思うと、やはり載せないでおこうと思います。かわいい店員さん、ありがとうございました。

夜は、ホーランドシアターで、学生のミュージカルを見るため、早めの夕食をとることになりました。私のリクエストで、毎年訪れるのを楽しみにしている一番のお気に入りのイタリアンレストラン「カフェ ベランダ」に、連れて行ってもらいました。



**Cafe Veranda の玄関にて**



**私たちは、いつも店内には入らずに、文字  
通りベランダに席をとります。  
サラダ、シュリンプのカクテル、ホタテ料  
理とごまのパンをいただきました。  
と〜っても、美味しいです！満足！幸せ！**

さて、次の日は、毎年恒例となったインディアンレイクでのクルージング！  
インディアンレイクは約25kmあります。

今年は、Connieさんのご主人のTimさんがボートを出して下さいました。Connieさんの家の庭先から出発です。



運転席がTim。後ろ左からTom, Connie, Vicki, Chico, Pollyです。PollyはIFCの代表です。



Connieの家の庭で、軽くsupperを食べてから、ボートに乗りました。

#### \*At Vicki's House

Vickiさんのお宅では、毎晩、プールに足をつけながら、コロナビールを飲み、ふたりで色々なお話をしました。

お昼は、Vickiが美味しいブランチの他に、8月が私の誕生日だった為、カップケーキを焼いて、お祝いをしてくれました。私は、今やもう、彼女のファミリーの様です。



ブランチの後は、お話をしながら、水の中でくつろぎました。Feel Good!

Dear my greatest friend, Vicki,  
Thank you for kindly welcoming me and accepting my selfishness all the time.

Your house is my second home now.  
I do not know how I can express my feeling of thanks.

Vicki, I always pray for your happiness and health.

I wish your life will be full of joy.

I love you.

**\*フェアウェルパーティ**

ほとんどの生徒は、浴衣姿で会場にやってきました。自分で浴衣を着てくるのですが、上手に着てくる子もいれば、会場に着く頃には、もう着崩れていて、慌てて直してもらったりする子もいました。



←ライアン君が今年も来てくれました。彼は、このベルフォンテン派遣事業がきっかけで、6年前から日本との交流をずっと続けています。日本語も随分上達し、また日本に来る予定があると言っていました。

↑添乗員のアニーさん。とてもパワフルな方で、とてもお元気!! 大変お世話になった人です。発言に死語?が多いので、いつもみんなで大笑い。私とは、昭和の話で盛り上がりました。

IFCのConnieさんのオープニングの挨拶に続き、8月のお誕生日の優希ちゃん、碧ちゃんと私が呼び出され、みんなでハッピーバースデーの歌で祝ってもらいました。

それから、しばらく、IFCが用意してくれたピザ&クッキーをいただきながら歓談タイムです。



←IFC スタッフの Pat さん (左) と Mitsue さん (右)

そしていよいよ、生徒たちによる発表です。

生徒たちにとっては、これが最後の発表。これまでやってきたことの集大成です。緊張もあるにはありますが、今度はホストファミリーが相手です。市長や教育長に見ていただいた時よりも、親しみがあり、感謝の気持ちを込めて発表ができました。

**\* 航くんと涼さんのやり方を見て、彼らの家のホストが二人羽織に挑戦！！**



**Isaac と Jakob の動きに、会場は大爆笑でした。上手でしたネ！**



**うちわの説明をする  
彩乃ちゃん**



**赤・青・緑の鈴鹿墨を紹介する3人娘**



**風呂敷の説明をする汐未ちゃん  
と航くん**



**スイカを包むしーちゃん**



**銭湯の説明を桃ちゃんがした後、ひかりちゃん  
が実際に銭湯に行く様子を実演します。**

**ホストのみなさんも、風呂敷の便利さに感心し、生徒達から風呂敷を  
プレゼントされると、とても喜んでいました。**

**\*パフォーマンス「マツケンサンバ」**

鈴鹿市には多くのブラジル人が住んでいるので、サンバを披露しよう！ということで、明るく楽しいマツケンサンバを踊ることになりました。

ひかりちゃんの指導の元、繰り返し練習してきた踊りを、いよいよホストのみなさんに見ていただきます！



**準備はOKかな～？**

**振付師ひかりちゃんが→  
サンバの紹介をします！**



**みんな笑顔がいいですねー**



**腰元ダンサーズが舞う中、かつらをかぶってマツケン男子登場！！**



**腰元ダンサーズ「オーレ！」**



涼さんのホストのおかあさんのヘジラネさんは、ブラジル人です。この時妊娠中で臨月だったのですが、サンバが始まると、大喜びで、最後は一緒に踊ってくれました。おとうさんも面白い人で、とってもステキなファミリーでした。

**\*フォークダンス「マイムマイム」**

サンバの後は、みんなでマイムマイムを踊りました。



**↑マイムマイムと前へ!**

**\*歌「Top of the world」**

最後に、全員で心を込めて歌いました。



ホストに気持ちが伝わるように、一生懸命歌っていますね!とてもよかったよ!



パーティ終了後、しばし撮影タイム



**\* 別れの朝**



昨夜のサンバの余韻からか、ヘジラネさんは集合場所へ向う車の中で、フラジルサンバの曲を大音量でかけていました

しーちゃん、航くんは明るくさよなら。  
See you again!と、再会を約束します。



ほなちゃんのファミリーは、お仕事があってバスが出発する前にお別れをしなければなりません。ほなちゃんも、明るく「バイバーイ!!!」



**こうして見ると、みんな“家族”になったんだね！**



優希ちゃんは、泣いてたね



彩乃ちゃん、しーちゃんは最後のハグをしてお別れ



智加ちゃんも、激しく泣いてたね～



涼さんところの6歳のジュリアちゃんは、お別れが悲しくて、涼さんにしがみついて泣いていたネ！  
かわいいね。

また、会えますようにー



そして、いよいよバスに乗り込みます。



あれあれ？  
明るく分かれた  
はずの子達まで、  
涙！？  
ほなちゃんが、ひ  
と元気にみんな  
を励ましてたネ！  
それで、みんな  
笑顔になったので  
した！



帰りの生徒達は、皆、異常なハイテンションでした。

デトロイトの空港で、私たちが乗る飛行機の出発が4時間半も遅れて、空港に6時間も滞在することになったのですが、生徒達は、空港を探検して歩き回り、空港の隅から隅まで見て回ったようです。

私と添乗員のアニーさんで荷物を見張りながら待っていた“昭和基地”には、結局みんな、なかなか帰って来ませんでした。

そして、やっと戻ってきたかと思えば、ホストに教えてもらった手のラップをみんなでリズムにのってやり出し、研修中のみんなの様子からは考えられないほどのクレイジーぶり！？でした。みんな仲良くなったねー。

そして飛行機では休んだものの、セントレアからのバスの中では、また元気になり、私たちは、なんと午前2時に、鈴鹿市役所に戻ったのでした。

真夜中に迎えに来て下さったお父様・お母様、ありがとうございました。

### 《帰国報告会 8月12日（金）10：00～11：00 鈴鹿市役所 庁議室にて》

末松則子市長、長谷川正人教育長、平井憲章鈴鹿国際協会理事長に、帰国報告をしました。



みんな、緊張で顔がこわばっていますね～





生徒は一人ずつ、体験から学んだこと、ホームステイをして感じたこと、これからのことなどを、それぞれ発表していきました。



末松市長、長谷川教育長、平井理事長からそれぞれ、温かいお言葉をいただきました。



最後にみんなで記念写真！私たちが来ているTシャツは、東日本大震災で傷ついた日本のために、ベルフォンテン高校の先生と生徒たちで作ったTシャツです。チャリティーで集まったお金を日本に寄付してくれました。鶴が飛び立っている絵に「Benefit for Japan」という字が書かれています。

## 《コミュニティ FM ラジオの番組出演》



FM局に行く前に、みんなでお昼ごはんを食べに行きました。帰国報告の緊張から解放されて、みんなこの笑顔！



パーソナリティの美華さん



FM局では、「めっちゃずか」という番組の中の、協会とタイアップしている「わいわいワールドヴォイス」というコーナーで、みんなの体験談を電波に乗せました。ここは、それほど緊張しなかったかな？みんな笑顔だね！

## 《おまけ》

9月26日（月）、アダム ブラナン ベルフォンテン市長が鈴鹿市役所を訪れ、末松市長に面会しました。ブラナン市長は、東京で開かれていた日本・米国中西部会日米合同会議に参加するため来日しましたが、友好都市提携20周年ということもあり、この機会を利用して、鈴鹿市に立ち寄られました。



アダム市長がお帰りの際、昨年度の派遣メンバーの西脇 理巧くんと、今年度メンバーの田中 碧ちゃんが、市長のお見送りに来てくれました。アダム市長は、生徒との再会をとても喜んでいらっしゃいました。

## 《メンバーのみんなへ》

今年のメンバーは、始まりは全体的に、大人しく、まじめな生徒が多いなあ〜という印象でした。宿題を出すと、それぞれとてもたくさんアイデアを持ってきてくれて、ベルフォンテンで発表する内容は、連動的にすぐまとまっていきました。

みんなの個性が少しずつ出てきたのは、研修3回目くらいからでしょうか？マツケンサンバの踊りの練習で、実際に体を動かし初めた頃から、みんなの目が輝きだし、メンバー間でも少しずつ遠慮がとれて、打ち解けていくようでした。やっぱり体を動かすと、元気が出て、ポジティブになるのかな？

サンバの練習は、いつも楽しそうでしたネ！

ひかりちゃんが、振り付けと指導を買って出てくれて、とても上手にみんなを引っ張って行ってくれたのが印象的です。

彩乃ちゃんは最年少で、アメリカで不安も多かったけど、しっかりメンバーについて行って頑張ってたよね。

しーちゃんは何と言っても元気印！そして、ほなちゃんはいつもニコニコ笑顔で、みんなを和ませてくれました。みんなのムードメーカーになってくれて、ありがとうね。

智加ちゃんは、いつもとても協力的で、あやとりをみんなの分まで率先して作って来てくれたり、研修の片づけの時も、最後まで残ってお手伝いをしてくれましたね。

碧ちゃんは、とっても個性的で、独特の感性を持っていると思います。ベルフォンテン市長が来鈴した時にも、気の利いた出で立ちでお見送りに来てくれましたね。

綾香ちゃんは、アメリカで本来の姿が出たような気がします。そして、ホンダの工場での綾香ちゃんがとっても印象的でした。

桃ちゃんも、日本にいる時より、アメリカにいる時の方が、ずっと笑顔が多くて、楽しそうで、自由な感じがしました。子供と交流できてよかったネ！

汐未ちゃんと優希ちゃんは、いつも落ち着いていて、お姉さんの存在でした。汐未ちゃんは、芯がしっかりしていて、優しい笑顔が人をホッとさせてくれます。優希ちゃんは、英語もしっかりしていて、安心感があり大人な感じでしたが、時折、わっと笑う顔がおちゃめでした。

そして、男子は2名しかいないので、女子のパワーに押され気味だったけれど、その中でもふたりの味を出して、皆を和ませてくれました。

航くんは、二人羽織でいい味を出してくれたし、涼さんは、終始ピエロ役で、みんなを笑わせてくれました。

研修中に、色々な人が、みんなの激励に来てくれ、ためになるお話をたくさんしてくれましたね。

それを心に刻みながら、実際にアメリカに行ってみて、それぞれ感じたことはたくさんあったと思います。

これは、みなさんの人生の最初のほんの小さな第一歩です。これをきっかけに、それぞれの次のステップを、踏み出して行ってください。

私は、みんなの将来を楽しみに、いつもエールを送っているからね！

Good Luck!

**Dear host families, IFC staff, and all people concerned,**

We will always think of 2011 as the year that a great earthquake disaster occurred in Japan.

We received many warm words and expressions of condolence and concern from the people of Bellefontaine in the days following the disaster.

This year we are celebrating the many years of our sister city friendship.

This is the result of both cities continually exchanging missives and visits to deepen our 20 years of friendship.

I hope that the friendship between our two cities will continue into future.

Thank you so much for warmly accepting our students into your homes and for your many kindnesses.

I sincerely appreciate the hospitality each of you provided.

With Love and gratitude,

Chico